

<P15よりつづく>

まず予算面では、本年度の課の予算は、11億3,500万円余で、企画部予算の5.5%でその内容を見ると、国からの委託統計費が9億7,200万円で86%を占め、残る1億6,300万円が県単統計費等で、課の名が示すとおり、統計予算である。一方、業務内容であるが、基礎統計、加工統計を合わせると40数種を数え、60年度に実施する統計調査に限ってみても30数種にのぼり、統計に無知であった私には、この数はただ驚きであった。

反面、このような貴重な統計資料の過去の私の扱いはどうであったろう。統計業務に携わっている皆さんには申し訳なかったが、配布・回覧された資料のほとんどは、よく目も通さずに書棚等に直行してしまったように記憶しています。自分が統計業務に携わってみて、今更ながらこれらの行為を反省している昨今である。



転勤にあたって

農林経済担当課長補佐
田村正彦

4月の定期異動で、教育委員会から3年ぶりで知事部局に勤務することになりました。

今までは、教職員のみ関係事業等の仕事にたずさわっており、統計課の事務内容等については、何をどのように処理し結果が出るかわからずにはいましたが、一ヵ月たった今、課内の年間計画等の事務処理を検討してみれば、年間に処理すべく多くの仕事が次ぎ次ぎに計画されているのが良くわかりました。

この私に出来るかどうか不安ではありますが、課員の皆様とともに精一杯頑張りたいと思いますので、よろしくお願いたします。



どうぞよろしく

農林経済担当主事
戸田豊作

このたび、県職員となって初めての異動で統計課にお世話になることになりました。初めての異動で不安もありましたが、よき先輩に恵まれて、忙しいながらも楽しく仕事をさせていただいております。

統計課はスポーツの盛んなところではありますが、私はスポーツはからきしダメ、せいぜい体を動かし、楽しむ程度であります。それでも一応ユニホームは、青年会時代のを

持っております。先日の4月27日には、野球の紅白試合の予定で出かけたのでありますが、雨でトレーニングだけで残念でありました。それから県庁みこし愛好会にも入っております。私に上手にと言われても無理な話ではありますが、大いに楽しんでいきたいと思っております。

統計課に勤務して早1ヵ月、雰囲気には大分なれましたが、仕事にも早くなれ、先輩たちのように早く一人前になりたいと思っております。皆さん、どうぞこれからもよろしくお願いたします。戸田豊作です。通称ホウサク、農林経済には向いているような感じがいたします。



編集後記

統計指導担当主事
山本和夫

統計いばらきをご愛読いただきましてありがとうございます。そして、このページに目を止めていただきありがとうございます。

私がこの4月から統計いばらきの編集を担当することになりました。どうぞよろしくお願いたします。

統計課への異動と聞いたときには、数字ばかりを相手にするものと思っていましたが、さにあらず、これが文字相手、赤鉛筆青鉛筆の世界です。そしてカメラ、これまで一眼レフなどという高級機は使ったことがなく、もっぱらバカチョンばかりでしたので、写真を撮るたびに写ったかどうか心配でありませんでした。

本の編集という仕事ははじめてなものですから、たくさんの方々はこの本を楽しみにしていただいておりますのに、発行が遅れて申し訳ありませんでした。

とは申しませんが、恥ずかしながら私は統計課にお世話になるまでは、この本の存在すら知りませんでした。統計資料というものにもお世話にはなっていたのだらうと思いますが、自覚したことはありませんでした。あなたの近くにもこういう方がいるかも知れません。ぜひ統計いばらきを紹介してあげてください。

これから一人でも多くの方に統計いばらきのページを練っていただけるよう頑張りたいと思います。ご協力お願いたします。

経 済 動 向

国内の動き

●ハイテクを地方分散

通産省は、21世紀を目指した新たな工業再配置計画の基本方針を固めた。新工業再配置計画は、ハイテク産業を地方に分散し全国に根付かせることにより、経済を活性化させることがねらい。具体策としては、①テクノポリス建設の促進、②ハイテク関連の人材育成や情報流通を目指す高

機能都市の建設、③地域産業の高度化を目指す地域工業活性化都市の建設、などを進める。同省は近く、こうした方針を工業再配置基本問題懇談会に示したうえ、工業立地及び工業用水審議会に報告する。(日経 4月3日付)

●都道府県の60年度予算、緊縮のなか積極色

自治省は、47都道府県の60年度普通会計予算の概要をまとめた。予算総額は29兆3,779億円で前年度に比べ4.7%増加。依然として緊縮基調ながら、58年度の2.1%、59年度の2.7%を2ポイント余り上回る伸び率となった。また単独

事業についても地方財政計画を大幅に上回る4.5%増を確保するなど、厳しい財政事情の中で積極性を打ち出す苦心もうかがわれる。茨城県の普通会計予算は、6,046億円で前年度に比べ2.7%の伸びとなっている。(日経 4月4日付)

県内の動き

■経 済

●売上高・経常利益とも伸び率は鈍化

日銀水戸事務所が茨城県の66社を対象に行った企業短期経済観測の調査結果によると、4～6月は製造業中心に業況が悪化し、今年度上期は売上高、経常利益とも伸び率が大幅に鈍るとみる企業が多い。調査は4半期ごとに実施しており今回は2月に行った。2月時点の業況実績について

は、「悪い」と答えた企業が全体の18%を占め、「よい」の17%をやや上回った。4～6月予測は「悪い」が20%「よい」が11%で、「悪い」とみる企業がさらに増えている。特に製造業のなかの電気機器、化学といった業種にこの傾向が目立つ。(日経 4月6日付)

■産 業

●鹿島、進む「精密化学」への移行

「重・量」から「軽・精密」へと産業界の比重が移行するなか、鹿島臨海工業地帯でも「重化学」から「精密化学」分野への進出が続き、既存企業でも新分野への挑戦が増えている。新しく進出する徳山曹達鹿島工場が、精密化学部門の拠点にしたいとしており、また、既に操業中の各工場も、従来

のどちらかという「量」で売る製品から特殊性を売る製品製造への取り組みが目立つ。住金では鉄以外の新素材にとり組む意向をかねてから示しており、現段階でも高付加価値型商品の製造が進んでいる。(常陽 4月6日付)

■その他

●地価公示、水戸市近郊で上昇

国土庁は、県内529地点の地価を公示した。県内の平均地価は1平方メートル当たり5万9,900円で、前年比の変動率は2.8%アップ。しかし変動率は勤労者所得の伸び悩み、住宅需要の低迷を反映して、56年の7.7%をピークに

鈍化傾向にあり、今年も1ポイント下がった。とはいえ高値安定には変わりなく、常磐自動車道の供用延伸、大洗鹿島線の開通と交通条件の整備に伴い、今年は水戸市や大洗町、勝田市での地価上昇が目立った。(いはらき 4月2日付)